

日 程	科 目	学 部	学 科	専攻・コース	
I 期	日本語				
受験番号		氏 名			採 点

I 次の（ ）の中からもっとも適切なものを選び、○で囲みなさい。

- (1) 交通の便（ まで ぐらい さえ しか ）よければ、この町はもっと観光客が集まるだろう。
- (2) 目上の人（ にとって に対して に関して によって ）そんな言い方をするのは失礼だ。
- (3) 意味が正確に（ 伝わるように 伝えるように 伝えるために 伝わるために ）、適切な表現を使うべきだ。
- (4) 来月、ダンスの発表会があります。ぜひ見に（ 来たい 来させてほしい 来られたい 来てほしい ）です。
- (5) 子どものころ母が（ 教えてもらった 教えてあげた 教えてくれた 教えた ）料理をひとりで作ってみた。
- (6) この仕事をするには、英語が（ 話せるはずだ 話せるべきだ 話せなければならない 話さなければならない ）。
- (7) 今日中にこの仕事をなんとかして（ 終わるだろう 終わらせるかもしれない 終わらせよう 終わろう ）。
- (8) この映画は海外でも非常に高い（ ふうひょう 風評 ひょうか 評価 ひひょう 批評 ひはん 批判 ）を受けている。
- (9) 古くなった学校の建物を（ かいぞう 改造 かいかく 改革 かいりょう 改良 かいちく 改築 ）して、病院として利用することになった。
- (10) おおたにしょうへい 大谷翔平に（ あきれて ねがって あこがれて あきらめて ）野球を始める子どもが増えた。
- (11) お忙しいところ（ たまに たまたま たびたび しばしば ）来ていただいて、申し訳ありません。
- (12) 彼女は口が（ 重い かた 堅い 軽い うまい ）ので、この話を他の人には話さないだろう。
- (13) どうぞパンフレットをご自由に（ お持ちして お取りして いただいて お取り ）ください。
- (14) ボランティア団体の（ メディア マスコミ ネットワーク グループワーク ）によって、多くの食料が被災地に集められた。
- (15) 新しい技術を（ 取り入れた 受け取った 受け入れた 取り出した ）新製品が発売された。

II 次の文の ★ に入るもっとも適切なものをア～エから一つ選び（ ）の中に書きなさい。

- (1) 海洋プラスチックが増えている _____ _____ ★ _____ 考えなければならない。 （ ）
ア 環境問題 イ ことを ウ として エ 深刻な
- (2) この地域に _____ _____ ★ _____ 不満が大きくなっている。 （ ）
ア に対する イ 住民の ウ ごみ処理場を作る エ こと
- (3) 地球温暖化に _____ _____ ★ _____ 面でも大きな問題となっている。 （ ）
ア 影響は イ 経済の ウ よる エ 気候変化の
- (4) 現代の若者の _____ _____ ★ _____ アンケート調査を行った。 （ ）
ア 考え方 イ について ウ に対する エ 仕事

日 程	科 目	学 部	学 科	専攻・コース	
I 期	日本語				
受験番号		氏 名			採 点

Ⅲ 次の下線部に適切な表現を書き、文を完成させなさい。

- (1) 女性の社会進出が進むにつれて、
- (2) この店の商品はデザインもよく、丈夫^{じょうぶ}だ。そのうえ
- (3) せっかくコンサートのチケットを予約したのに、

Ⅳ 次の下線部に適切な表現を書き、文章を完成させなさい。

^{こうせいろうどうしょう}厚生労働省の発表によると、日本における外国人労働者数（2023年10月末時点）は204万8,675人となり、過去最高を^{こうしん}更新した。外国人労働者が増えることで、

という利点がある。

しかし、

という問題も生じてくる。

Ⅴ 次のA～Cに、下のア～ウの文を入れて、文章を完成させなさい。

子どもが正確に文字を書くのは、難しいものです。

- (A)
- (B)
- (C)

まっすぐな線やくねくねと蛇行^{だこう}した線など、鉛筆を思い通りに動かす運筆^{うんぴ}練習^{つれんしゅう}からはじめていきます。

ア 正しい持ち方に気をつけるだけでも精^{せい}一杯^{いっぱい}です。

イ だから、いきなり字を書く練習はしません。

ウ 小さな子どもはまだ手先が器用ではなく、思うように鉛筆を運ぶことができません。

(A)	(B)	(C)
-----	-----	-----

日 程	科 目	学 部	学 科	専攻・コース	
I 期	日本語				
受験番号		氏 名			採 点

Ⅵ 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

「うちの子は読解力がなくて困っているのよ」と愚痴^{ぐち}をこぼす親がいます。

実際に a 悩んでいる中・高生の方もいるかもしれません。こんな声には耳をふさぎたくなりますよね。

続けて、決まり文句のようにこんなことばが続きます。

「……だって、ぜんぜん本を読まないから」

国語のテストで点数がとれないという壁^{かべ}にあたると、どうしても読書経験の問題に置きかえられることが多いものです。本を読む b 習慣がないことが原因で、読解力が低いという結果が生まれると判断するのは自然なことでしょう。

たしかに読書経験は大事です。家庭の蔵書数と子どもの読解力には相関関係があるとも言われています。書物を通じて新たな知見を得たり、ことばを増やしたりすることもありますよね。実際に物知りで大人顔負けの知識をもっている子もいます。本好きの中には「得意科目は国語」と高らかに宣言^{せんげん}をする人もいます。

でも、本好きが国語のテストでいつも高得点をとれるわけではありません。中・高生になると、テストで扱う文章も難しくなりますよね。低い点数をとってしまったときに、先生から「もっと本を読んだ方がいい」なんて声をかけてもらっても、まったく具体的なアドバイスにはなっていないと感ずることでしょう。原因は読書量の問題だけではないはずですよ。こうした単純化は、いかに人が「読む」という行為^{じつたい}の実態をわかっていないかを示しています。

日本に生まれていれば、多くの人が日本語を不自由なく操^{あやつ}ることができるでしょう。

X

、国語のテスト問題は日本語で書いてあるにもかかわらず、全員が正解にはたどりつけるわけではありません。つまり、読めないのです。

これからテストに向けたテクニックの話をしようというわけではありません。むしろ、テクニックという安易な話に耳を傾けるのではなく、「読むこと」の実態について考えたいのです。そのために、字が読めるようになったばかりの子どもに注目してみましょう。

子どもは声に出して読むことを好みます。「お父さん、ちゃんと聞いていてね」なんて言いながら、はりきって読んだ経験があるのではないのでしょうか。誰かに c 認めてもらうことが、一つのモチベーションにもなるものです。

さて、次に例に挙げ^あげるのは、音読の宿題に取り組む子どもとお父さんのやりとりです。短い会話ですので、まずは目を通してみてください。

「宿題の音読はできた？」

お父さんが気になった様子でたずねます。

「うん、さっき一人のときにきちんと読んだよ」

「……もう読んだの？ 聞いたかったなあ」

どうしても d 確認をしたくて、お父さんはもう一度読むことをうながします。

「しょうがないなあ、いいよ！ちゃんと聞いていてよ……『おじいさんが……』」

お父さんは、子どもが一生懸命^{いっしょうけんめい}に読む様子を目にしました。途中でつかかか様子も見られず、漢字の読み方があやしいところもあります。内心ほっとしたようです。

日 程	科 目	学 部	学 科	専攻・コース	
I 期	日本語				
受験番号		氏 名			採 点

「すごい、上手じゃないか！ Z 読めたから、びっくりしたよ！」

「だから、読めるって言ったでしょ！ 得意だもん。もう一回読んであげようか？」

お父さんはうなずきながら、子どもにほほえみかけました。

——いかがでしたか。子どもはお父さんに認めてもらえて、うれしかったことでしょう。日常にこんなやりとりはありますよね。

でも、この事例にもことばの意味と価値の問題が e 隠れています。

一見、何気ないやりとりのように感じられますが、このとき子どもは、「読む」ということばをどのように学習しているのでしょうか。

注目したいのは「読む」の内容です。

音読したかどうかを問われて、子どもは「きちんと読んだよ」と発言をしています。子どもにとってみれば、自分の音読に問題を感じることはなかったのです。

その後、お父さんは実際に確認したかったので、もう一度読むことをうながしていますね。子どもの音読を耳にして、最後にはお父さん自身も「上手じゃないか」と評価しています。

これまでのやりとりをふり返ってみても、お父さんと子どもの「読む」ということばの意味合いにずれはありません。

しかし、今回は①それが問題なのです。

お父さんは、子どもが「Z 読めたから」おどろいたようです。よどみなく読むことができたことを褒めて（ほ）いるのです。

少なくともこの音読の宿題を通じて、お父さんが子どもに与えている「読む」ということばの意味と価値は、「書かれている文章を声に出して表すことができる」という内容です。子どもはそのように学習しています。

もちろん、間違ってはいません。

でも、このまま成長していくと、子どもは「読めない子」になっていく可能性があるのです。

「読めているのに、なぜ読めない子になるの？」と思われるかもしれません。

ここで「読む」ということばの意味をもう少しほり下げてみましょう。

音読をする際、ことばの読み方やイントネーションを正確に発音することは大切です。りゅうちょうに文字や文章を読めているのは、これらができている f 証拠でもあります。音声で表現するためには、間違えずに読もうとする意識も欠かせないものです。

一方、「読む」という行為は、音声だけの問題にとどまりません。例えば、g 物語であれば登場人物の気持ちの変化に気がついたり、説明文や評論文であれば文章の構成や展開を掴（つか）んだりすることも大事になりますよね。これは声に出してあらわすこととはまた別問題です。

ややこしいのは、②どちらも「読む」という同じ言い方をすることです。

もちろん、これらは明確に区別できるものではありません。音声にできるということは、内容理解をふまえていることも当然考えられるでしょう。物語であれば、中心人物が誰かに傷つけられたり、裏切られたりすることがあります。気持ちが落ち込む場面の台詞（せりふ）であれば、明るい声では読まないですね。物語の流れが分かつていれば、時間や空間の移動をともなう場面の区切り目では、少し間をとることもあるかもしれません。内容や形式の理解が読むことに必ず反映されるはずです。

日 程	科 目	学 部	学 科	専攻・コース	
I 期	日本語				
受験番号		氏 名			採 点

【中略】

ときに見られるのは、

Z

と音読しているのに登場人物の心情が掴めていなかったり、文章構成のh意図がわからなかったりする子の存在です。これは「読む」ということばの理解が一つの原因にもなっています。

Z

読めるということは、裏を返せばそこにひっかかりがないということです。

Y

、声に出して読むこと自体が目的になっているからです。

しかし、ことばの意味を慎重に吟味しようとするれば、「この台詞は、もう少し声の大きさを抑えて言った方がいいかな」、「場面の雰囲気を出すためにも、ここはゆっくり読もう」などと読み方を考えるはずです。だから、むしろつかかった方が読めているということもあるはずです。

慎重に子どもの「読む」という行為を解釈すれば、③音読が上手な子は「文字を読めてはいる。でも、内容はわかっていないかもしれない子」とも言い換えられるのです。

(岸 圭介『学力は「ごめんなさい」にあらわれる』)

問1 波線部a～hの漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- a 悩んで () b 習慣 () c 認めて ()
- d 確認 () e 隠れて () f 証拠 ()
- g 物語 () h 意図 ()

問2 空欄

X

、

Y

に入る語として、もっとも適切なものを次のア～カからそれぞれ選びなさい。

- ア たとえば イ さらに ウ だから エ つまり オ しかし カ なぜなら

X	Y
---	---

問3 空欄

Z

に入る語として、もっとも適切なものを次のア～オからひとつ選び記号を○で囲みなさい。

- ア ぺらぺら イ さらさら ウ すらすら エ すいすい オ べらべら

問4 下線部①「それ」はどのような内容を指しているか、文中のことばを使って答えなさい。

日 程	科 目	学 部	学 科	専攻・コース	
I 期	日本語				
受験番号		氏 名			採 点

問5 下線部②「どちらも『読む』という同じ言い方をすることです」とあるが、「読む」ということばの意味はどのような意味で使われているか、文中のことばを使って二つ書きなさい。

こと

こと

問6 下線部③「音読が上手な子は『文字を読めてはいる。でも、内容はわかっていないかもしれない子』とも言い換えられるのです」とあるが、なぜ音読が上手な子は「内容はわかっていないかもしれない子」になるのか。文中の言葉を使って説明しなさい。

問7 次のア～エのうち、本文の内容とあっているものには○、そうでないものには×をつけなさい。

- ア 読書経験が多い子どもは国語のテストでいつもよい点数を取ることができる。()
- イ 音読をする際、ことばの読み方やイントネーションを正確に発音するという意識が必要だ。()
- ウ 物語の流れがわかっているときも、そうでないときも、音読のしかたに違いはない。()
- エ ひっかかりながら文章を読む子どもでも、文章の内容を理解できていることもある。()